

がんばる!

町制60周年記念書籍「日南X」発売記念スペシャルインタビュー

にちなんびと(特別編)

日南X作者 ^{まつもと}松本 ^{かおる}薫さん

プロフィール

鳥取県米子市生まれ

2000年「ブロックはうす」で早稲田文学新人賞を受賞
2005年「梨の花は春の雪」が鳥取県西部で製作される市民シネマの原作に選ばれる

おもに鳥取県内の歴史や、ゆかりの人物をモチーフにした小説を書いている。

現在、鳥取県立高校国語科講師、NHK米子文化センター「小説・エッセイ講座」講師。

〈著書〉

『梨の花は春の雪』(2006)、『TATARU』(2010)、『ばんとうー山陰初の私立中学をつくった男』(2017)で鳥取県出版文化賞を受賞。その他の著書に『謀る理兵衛』(2013)、『天の蜩ー十七夜物語』(2015)など

「日南X」を執筆されたきっかけは

4年前に増原聡前町長から「日野郡三部作のラストを日南町で」との提案をいただいたのがきっかけでした。ジャンルをミステリーにと言うのは、私からお願いしました。理由は、日南町が松本清張ゆかりの地であること。ミステリーを一度は書いてみたかったこと。そして、町内のいろいろなところが出せるところからです。増原前町長にそれをお話しときには、少し難色を示されましたが、最終的には条件つきでしたが、了承していただきました。

日南町の印象は

日南町のことが好きで惹かれていました。日南町には田んぼや畑だけでなく、高原もあって本当にさまざまな風景があるのが魅力だと思います。もう少し若かったころには日南町への移住を考えたことがあり、主人と日南町を訪れたときに「あそこ空き家じゃない?」などと話しをしていました。今回の執筆にあたり、10日間滞在して町内を回らせていただきました。

日南Xというタイトルについて

もともとは執筆しているときのパソコンのフォルダ名が「日南X」でした。完成まで1年半くらい日南Xと言っていたので、私の中ではタイトルは決まっていた。本文にもXは出てきます。そして、最後には日南Xの理由も明かされます。登場人物は、今回の作品についてはあらかじめイメージを作ってから書きました。

どんな人に読んでもらいたい

ターゲットを絞らず幅広い世代の方に読んでいただけるように書きました。世代によって感じ方が変わるのではと思っています。年配の方には戦争やシベリア抑留を、若い世代には青春時代を思わせるのではないのでしょうか。日南町の方はもちろん、町外に出られた方には故郷を思い浮かべながら読んでいただきたいです。まだ日南町をまだ知らない方は、ぜひ作品を読んで日南町に興味をもっていただきたいです。たくさんのご感想をお待ちしています。

執筆にあたり苦労されたところは

ミステリーを書くのが初めてで、警察の捜査について分からない部分が多く、元記者の大櫃裕一さん(米子市在住)にご協力いただきました。およそ1年かけて原稿を書いたのですが、何度も修正が入り5、6回書き直しをしました。また、話の入り口から途中まではイメージできていて、ラストも決めていたのですが、そこにどうつなげていくのかに大変苦労しました。書き進めるなかで、煮詰まるたびにすぎはらみきをさん(日野町在住)にも助言をいただきました。今回の作品はこの大櫃さんとすぎはらさんの存在がなければ完成できなかったと思います。

執筆する上で気をつけたところは

ミステリーなので謎解きは重要なのですが、ただ謎解きするものではなく人間ドラマを描くことを意識しました。それぞれの人物の行動に意味があり、こうしなければならなかったと思わせるよう書きました。日南町のいろいろな土地が登場しますが、それぞれもただ出てくるのではなく、意味のある形で出すようにもしました。ミステリーというフィクションではありますが、不自然さを感じさせないことも意識しました。

日南Xあらすじ

東陽新聞米子支局の記者・牟田口直哉と高校生の娘・春日。ある日、春日と友人たちは、オオクニヌシゆかりの赤猪岩神社で男性の遺体らしきものを目撃する。しかし直後にそれは消え、翌日、日南町の大石見神社で男性の遺体が発見される。報道記者として追いかけるうち、直哉は事件に秘められた過去に近づき始め――。親子の周辺で巻き起こる、過去と現在をつなぐミステリーが開幕!

